

スマホ・カメラ・マイク・照明 内製化の機材選定ガイド

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。

撮りたい映像と、使い続ける条件を先に決める。

この資料で 決める5つ

撮影する**内容**と**場所**

スマホで足りる条件と**カメラ**が必要な条件

音声・照明・固定の優先順位

担当者が再現できる**設定**と**管理**

試し撮りで確かめる**購入基準**

高価な機材をそろえる前に、今の制作で困っていることを一つ特定します。

買い足す前に、失敗した素材を見直す。

困りごと	確認箇所
声が 聞き取りにくい →	距離・周囲の音・マイク接続
顔や商品が 暗い →	光の方向・窓・照明位置
画面が 揺れる →	固定方法・持ち方・撮影動作
準備に 時間がかかる →	接続・設定・収納・担当分担

画質だけで判断せず、**撮影から編集までの詰まり**を探します。

選定条件を、一枚の要件メモにする。

目的

商品説明、採用、営業などの用途

撮影対象

話す人、手元、商品、動きの有無

環境

屋内外、騒音、電源、設置できる広さ

運用

担当者数、撮影頻度、準備できる時間

納品

縦横の画角、尺、公開媒体

費用

本体だけでなく周辺機器・保管・教育も含める

必須条件と、**あると便利な条件**を分けて比較します。

最小構成から、足りない部分だけを補う。

基本構成の候補

撮影端末

手元のスマホで試し撮り

音声

外付けマイクと接続の確認

光

窓の光と必要に応じた照明

固定

三脚や安定して設置できる支持具

保管

素材を移す場所と命名ルール

一度に全部を変えず、同じ条件で一つずつ試すと、追加した効果を判断しやすくなります。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）

ディレクター

目的・ターゲット・
企画の方向性を
決める

構成

台本・構成案を
作成する

撮影

構成に基づき
撮影する

編集

カット・テロップ・
BGMなどを整え
仕上げる

内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内で再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

スマホとカメラを、運用条件で比較する。

スマホで確認すること

必要な画角で撮れるか、音声を接続できるか、容量・電池が足りるか、素材を共有できるか

カメラで確認すること

スマホでは満たせない撮影条件があるか、設定とレンズ選びを引き継げるか、準備・保管を続けられるか

機種の優劣ではなく、必要な映像を**担当者が繰り返し撮れるか**で選びます。

マイクは、**声の距離**と**撮影環境**から選ぶ。

話す人が固定 → **装着型**や**近くに置く**方法を試す

複数人が話す → **全員の声が入る**收音方法を試す

屋外で撮る → **風や周囲の音への対策**を確認する

動きながら撮る → **接続・衣擦れ・動作範囲**を確認する

端子や変換器の対応は購入前に確認。**短く録音し、イヤホンで声・ノイズ・音割れ**を聞いてから本番へ進みます。

照明は、明るさより**再現できる置き方**を決める。

確認すること

顔や商品に必要な光が届くか

眼鏡・商品表面に強い反射が出ないか

窓の光が変わっても撮影を続けられるか

色や明るさがカットごとに変わらないか

通路・コード・スタンドの安全を確保できるか

設置位置と設定を写真やメモで残し、次の担当者が**同じ状態をつくれるよう**にします。

三脚・電源・容量も、撮影セットに含める。

固定

端末の重さと取付方法に対応するか

電源

撮影時間に足りる電池と予備を用意できるか

容量

必要な素材を保存し、撮影後に移せるか

接続

ケーブル・変換器をまとめて管理できるか

収納

付属品の不足を一目で確認できるか

小さな付属品の不足でも撮影は止まります。**持ち物表と返却時の点検をセットにしましょう。**

設定は、担当者の記憶から**手順書へ移す。**

残す項目

撮影端末とアプリ、画角、解像度などの設定

マイクの接続方法と録音テストの手順

照明・三脚・被写体の位置

素材の保存先、命名、バックアップ確認

困ったときの確認先と予備の方法

別の担当者が手順書だけで試し撮りし、**迷った箇所を追記**します。

購入・レンタル・外注を、使用頻度で分ける。

購入の候補

日常的に使い、社内で管理できる機材

レンタルの候補

使用頻度が低く、必要条件を事前に確かめたい機材

外注の候補

専門的な撮影・設営・音声管理が必要な場面

比較するのは機材費だけではありません。準備、教育、保管、故障時の対応まで含めて判断し、社内には目的と品質基準を残します。

試し撮りの評価は、映像と作業負荷を一緒に見る。

記録する指標

準備と片付けにかかった時間

聞き取りやすさと字幕の読みやすさ

撮り直しと修正の回数

1本あたりの編集時間と素材探索時間

設定の再現性と素材管理の事故

同じ台本・場所・担当条件で比べ、事実→原因の仮説→次に変える一項目→判断日を記録します。

月4本のモデルで、必要な機材を確かめる。

検証の進め方の例

企画と撮影は社内で行い、編集テンプレートは外部伴走で準備

手元のスマホと最小構成で撮影し、不足を記録

8週間で反応の良いテーマと制作負荷を確認

追加購入・設定変更・外注のどれで補うかを判断

実在の成果事例や効果保証ではなく、検証手順のモデルです。

90日で、自社の標準セットを決める。

0～30日

用途・場所・担当者・要件を整理し、最小構成で試し撮り

31～60日

撮影と編集を回し、音声・光・固定の不足を一つずつ改善

61～90日

機材一覧・設定・保管・引き継ぎを整え、購入と外注の範囲を更新

期間は導入の目安です。担当者の負荷と制作頻度に合わせて進めます。

最初の購入判断を、**試し撮り**から始める。

今日決めること

撮影するテーマと場所

今の機材で困っていること

試す最小構成と担当者

比較する品質と作業時間

購入・レンタル・外注を判断する日

ショート動画屋さんの**内製化支援**では、貴社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する